

# GIGAスクール構想「一人一台端末」の活用推進に向けて②

## 令和4年度は「デジタル教科書実証事業」が全学校対象に拡大

### 「全国学力・学習状況調査問題」の出題傾向に変化も

◎令和4年3月～4月「一人一台端末」導入後初の年度更新作業を実施

学校情報室では、GIGAスクール構想に関わる一人一台端末が導入されて以降、初めてとなる年度更新作業を行いました。

アカウন্ツの加除修正作業、新規パスワードの一括発行、端末の学校間移動等の対応を行い、各学校にも年度末から新年度始まりにかけて様々な面で御協力をいただきました。ありがとうございます。

児童生徒用の端末の他に、昨年度までに小学校5年生以上、中学校全学年のすべての普通教室に、大型提示装置が配備されており、今年度は、まだ配備されていない学年や、特別教室等の一部に、追加配備する予定です。

◎各教科の問題にもICT活用の要素が盛り込まれた「全国学力・学習状況調査」

四月十八日に実施された「令和四年度全国学力・学習状況調査」では、小学校・中学校ともに、ICT活用に關

#### 《ICT活用に關係する出題例の一部》

##### 【中学校・国語】

①「動画に自分のスピーチを記録し、他の生徒に見せて助言をもらっている」という場面設定からの出題

##### 【小学校・算数】

⑤「正多角形のプログラムミング」図形の意味や性質を基に図形の構成の仕方を考察することをねらった問題

##### 【小学校・理科】

①「ナナホシテントウを飼育しながら観察し、ようすが変化したときに、タブレットに記録・整理する」という児童の活動をもとにした出題

する要素を含む問題が各教科において出題され、その重要性が鮮明に打ち出された形となりました。

全国学力・学習状況調査の問題は、「今、求められている教育課題に關する、現場の先生方へのメッセージである」とも言われます。これらの問題・問題設定には、日ごろの授業でICTを活用することによって、児童生徒にとつてどのような学びの可能性が広がるのか、私たち教員にとつて、今後の授業改善・授業づくりのヒントとなる要素が散りばめられています。

結果分析が出るまでにはまだ時間がかかりますので、まずは、先生方で、担当する学年や教科に關わらずひと通り問題に目を通し、教科教育・ICT活用それぞれの視点からの感想を交流してみるのはいかがでしょうか。短時間で実践できる校内研究・研修の機会となります。

また、児童生徒質問紙調査に端末を活用して回答するC

B Tの試験実施も行われ、本市でも数校が参加しました。

なお、文部科学省のCBT化ワーキンググループの最終まとめでは、今後の見通しとして「児童生徒質問紙調査は、令和6年度を目途にオンラインによる回答方式を全面導入」「教科調査については、端末操作の熟達程度や実施体制の準備の観点等を踏まえ、中学校から先行し、令和7年度以降でできるだけ速やかに導入」としています。

#### ◎令和4年度「学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業」開始

4月に入り、各教科書会社から、学習者用デジタル教科書のアカウন্ツ発行等に関する通知が各学校宛てにメール等で一斉に送付されました。

令和3年度は希望する学校に対して1教科分のアカウন্ツ提供であったのに対して、令和4年度は、全国の全小中学校に対して、英語（外国語）の学習者用デジタル教科書が提供されることになりました。全国全ての義務教育段階の学校に在籍する、小学校5年生以上の児童生徒に対して、デジタル教科書の活用機

会が保障されたことになりました。

また、2教科目について、盛岡市では「国語及び書写・社会及び地図・道徳プラン」が割り当てられ、希望した学校には、2教科目の提供も行われました。

文部科学省からの通知文書の別添資料として配布された参加校向け案内では、学習者用デジタル教科書ならではの機能としては「拡大・縮小」「ペン・マーカーでの書き込み」「背景・文字色の変更」「機械音声読み上げ」「ふりがな」等が例示されており、「学習者用デジタル教科書は黒板や紙のノート、デジタル教材、大型提示装置や授業支援システムなどと組み合わせることで使用することによって、指導の幅が広がると考えられます」と説明されています。

各校へ配布された児童生徒アカウন্ツの余剰分については、授業者の教材研究用に活用することも認められています。本事業は、あくまで実証事業であり、その効果や課題を明らかにすることが目的ですので、児童生徒・先生とも「まずは「使ってみる」ことが大切です。